

仕事は、麓に住む私達の安全と深い関わりがあった。「人々のために危険な場所で作業している人は、ほんとに格好良く見えて自分も少しやってみたいと感じました。」「私も、見えないところでも人の役に立てる仕事をしたと思います。」といった感想も聞かれました。

当署としては、これからも高校生の森林土木に関する興味と関心を高め理解を深めることができるよう、治山工事の現場を見ていただく取り組みを重ねていくことにしています。

### 「利賀飛翔の会」へ贈呈

〔富山署〕五月十六日、富山森林管理署において国民の森林づくり推進功労者への林野庁長官感謝状の伝達式が行われました。

富山署管内では、砺波市利賀村を拠点として活動するNPO法人「利賀飛翔の会」が選ばれました。

同会は、平成九年に設立され、水無国森林の水無湿性植物群落保護林において、湿性植物を守るための湿原保全に取り組むとともに、地域の里山登山道整備、自然観察、散策ガイドを行い、地域に根ざした森林環境保護に貢献された功労に対して感謝状が贈呈されたものです。

加藤署長から同会に感謝状が贈られた後、「富山県西部地区の国有林で湿性植

物を保護するための取組などが認められたものであり、これまでの同会の活動に改めて感謝します。引き続き、地域と連携した森林づくりにご活躍いただきますようお願いいたします。」と式辞が述べられました。



加藤署長(右)から感謝状を贈呈

利賀飛翔の会の中西理事長からは「これまでの活動が評価され表彰をいただきました。地域、国有林と連携して今後も森林づくりにがんばっていきます。」と受賞の挨拶がありました。

富山署は、これからも地域と連携した森林づくりを推進していきたいと考えています。

### ヒノキコンテナ苗見学会を開催

〔岐阜署／森林技術・支援センター〕四月二十三日、岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗見学会」を

開催したところ県内の地方公共団体や林業団体等約三〇名の参加がありました。コンテナ苗は、植付作業の省力化により、コスト縮減が図れるとして近年、全国的にその取り組みが進められています。が、スギを導入した事例が多く、当地域の主要樹種であるヒノキの事例が少ない状況にあります。

はじめにコンテナ苗の特徴や国有林での導入状況、岐阜県の試験研究の状況等を説明し、その後、コンテナ苗用に開発された様々な植付器具を使って植付作業を体験していただき、参加者からは「植えやすい」、「扱いが容易だ」、「植付器具の違いがよくわかった。」等の感想がありました。



説明を受ける参加者

今後、見学会を開催した高天良国有



植付器具を使用しての植付作業

林において、岐阜県森林研究所と共同で実証試験に着手し、林地傾斜や植栽器具ごとの作業効率、育苗履歴・植付時期の違いによる成長状況等の試験研究を行い、地域に適したコンテナ苗の育苗やコンテナ苗を導入した造林技術の普及に取り組んでいくこととしています。

### 〔高国〕木曽ひのき

#### 最高値を更新

〔木曽署〕五月二十三日、木曽官材市売協同組合坂下事務所において原木市が開催され、国有林から委託材として高年齢人工林ヒノキをはじめ人工林サワラ等約五十立法材を出品しました。今回、出品した〔高国〕木曽ひのきの高年齢人工林ヒノキのうち二本は通直で隣接二材面が無節の「極印押印材」で、そのうち一本が

一立法が当たり二十万七千五百円で落札されブランド化の取り組み以降最高値となりました。



(元口)



最高値となった人工林ヒノキ(末口)

落札されたヒノキは、南木曽支署管内の阿寺国有林から生産された百十六年生の丸太で、長級四、径級四十四センチ、材積〇・七七四立法材です。落札されたのは愛知県の業者で、ここ数年木曽谷の国有林から生産された高齢級人工林ヒノ

キ材を使用し、板・建具等の製作を手掛けており、「木曽産ヒノキの製品は年輪が緻密で色味が良く、節が少なく良質である。」と、お客様からの評判も非常に良いとのことでした。

全体的に需要動向が落ち着き、ヒノキ並材価格が弱含みのなか、良材の品薄感からか、これまでのブランド化に向けた取り組みと木曽産の優良材が高い評価を受けていることを実感することができました。

今後もPR活動等ブランド化の取り組みを継続し、地域・木材関連産業の活性化に貢献していくこととしています。

### ナラ枯れ被害対策に関する取組

【東濃署】五月十七日、恵那市内の国有林「アライダシ自然観察教育林」において、地元の町づくり委員会、NPO、市役所とともにナラ枯れ被害対策に関する取組を行いました。

アライダシ自然観察教育林は、恵那市上矢作町の北東部に位置する一〇鈇の針葉樹と広葉樹が混じった自然林で、自然観察や森林浴を楽しむ場として多くの方々が訪れています。その中でも遊歩道入口にあるミズナラの大木や園内中央の共生木（ミズナラとサワラが癒合し一体となっている）は、教育林のシンボリックな樹木として親しまれています。

しかし、昨年調査したところ、カシノ

ナガキクイムシに幹を穿孔されたミズナラ等が七月八月にかけて集団的に枯死する被害（ナラ枯れ）が教育林でも確認されたため、カシノナガキクイムシが活発化する初夏を前に、ナラ枯れに関する学習と対策を地域の方々と行うことにしました。

当日は、ナラ枯れ研究の第一人者である衣浦晴生氏（独）森林総合研究所関西支所生物被害研究グループ長）を講師に招き、まず、ナラ枯れの被害発生状況や枯死の原因となる菌を媒介するカシノナガキクイムシの生態等について講演をいただきました。新緑が眩しい日差しの中でしたが、総勢一五名の参加者から多くの質問がなされ、予定した一時間を三〇分もオーバーするほどでした。



講演を聴く参加者

講演に続いて、昨年被害にあったと思われる遊歩道入口のミズナラ大木に、樹幹内で羽化したカシノナガキクイムシの飛散を防止するため、「カシナガホイホイ」（粘着シート）を地際から高さ三メートルまで巻き付けました。



ミズナラに粘着シートを巻く作業

さらに被害を受けていない共生木については、予防策として根元にドリルで深さ五センチほどの穴を二〇センチ間隔であけて殺菌剤「ケルスケット」を注入しました。どちらの作業もちよつとしたコツを手際よく作業ができました。

休養林を訪れ、作業風景を目にした市民の方々からは、「大変な作業で森林を守っているんですね、ご苦労様です。」



殺菌剤を注入している様子と参加者の皆さん

と声をかけていただきました。  
 また、作業に参加した地元の方々からは、「ナラ枯れ被害対策についてこのような機会を設けていただき大変ありがたい。」と感謝していただきました。これからも、地元と共同して、地域が大切にしている自然林の保全に努めていきたいと考えています。

### 寄稿

かつて木曾ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に係る思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、寄稿いただきます。

た。

国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

### 森林鉄道との出会い

元坂下営林署 宮下 幸彦氏

昭和二十年四月、名古屋より母の故郷の坂下へ疎開してきた紅顔の美少年？（一五才）が、当時の木曾地方帝室林野局坂下出張所田立伐採事業所へ採用となりました。戦争中の為、働き盛りの人達は軍隊に行き、山の中の現場は私達のような幼年か、老年の者が殆どでした。

与えられた仕事は、森林鉄道の作業軌道の保守で、旦那（指導員）に連れられて山の中に敷設されている作業軌道の保守に従事していました。

戦時の特別増産計画で出材が割り当てられた、二台あったガソリン機関車のうち一台は運転手が居なくて休車、この車を動かして目標達成を考えた主任さんが、私に「機関車の運転をしてみないか。」と勧め、私は、機関車の事は何も知らないものの、好奇心丸出しで承諾。専任の運転手さんより動かし方を習い、怖い物知らずで、助手も無く乗り出したのでありました。作業軌道は、写真にあるように沢を蛇行しながら上流へ延長されて、集材機による積み込み盤台に至っております。この作業軌道たるや

木材を割った材料で組み立てたものが多く、所どころ土道もありましたが、危険極まりないものでありました。若気の至りか？あまり思いも思わず、空車の引きあげ、材木の積載車を連結しての乗り下げにも従事し、時々脱線事故もありましたが目標達成に努力いたしました。



作業軌道の様子

また、田立森林鉄道一級・二級線中で継駅の奥屋まで材木の積載車を、奥屋からは空車を牽引してくる生活でした。

### 鬼淵鉄橋

元長野局森林技術センター 杉本利次氏

森林鉄道の起点に架かる橋、鬼淵鉄橋。

我が家は鬼淵鉄橋の袂であり家の前は、蒸気機関車の車庫や鋳物工場などがある森林鉄道の中心地で、子どもの頃は林鉄と共に生活をしていたようなもので、当時の上松運輸営林署は森林鉄道のレールを除き、森林鉄道に関わる資材の大半は直営で製作していた。

午後の三時頃になると王滝や赤沢の奥から蒸気機関車が、丸太を積んだ台車二〇台ほどを連ね鬼淵鉄橋手前の操作場へ入ってくる勇姿は壮観なもので、上松の町も活気に満ちていたが、今となればあの賑わいは何であったのかと思う。

当初、蒸気機関車の燃料は木曾ヒノキの枝を一五センチ程度に切った木片であった。鉄橋の近くに直営の製材所があり、その二階で生産していた。二階で生産していたのは、木片を蒸気機関車に積むためであった。木材のオガコを捨てる場所で沢山のカブトムシを捕ったことが思い出だ。

いつの日か蒸気機関車の燃料は石炭に変わった。

昔は、トントトン葺き（屋根板）の屋根の家が多く、蒸気機関車の煙突から出る火の粉が屋根に点いてボヤ騒ぎになるこ

また、その頃坂下に夜間高校が開設されたので応募し入学、仕事が終わってから約五キロの道を徒歩での通学はだいぶ堪え、一学期を頑張りましたがとうとう尻尾を巻いて退学、今思えばもう少し環境のよいところであれば？  
 六九年前の青春の一頁でした。

とも多々あった。

木曾川から鉄橋の最上部まで一〇〇メートルくらいはある。この鉄橋のアーチを酒に酔った勢いで裸足で登った強者が居た。しばらく足跡がアーチに付いていた。

ある時、鬼淵鉄橋修理の光景を見た。橋の袂で焼いたボートを長いハサミで掴んで橋の上に居る作業員を目掛けて投げ、上の人がジョウゴのような物で受けて、リベット打ちする作業であった。赤く熱したボートが橋の上の作業者を目指して正確に飛んでいく様と受け取る技は、さすがプロと子供心に思った。

森林鉄道に関する思い出の一コマを紹介させていただきます。



〔中信署 松本森林事務所〕

中村英昭 首席森林官

松本森林事務所は、長野県の中央部の松本市に位置し、日本百名山的美ヶ原高原を含む一帯と松本盆地の西側の日本百名山の蝶ヶ岳・常念岳を管理しています。

約二、〇〇〇年前後の美ヶ原高原からの眺望は、北には北信五岳・東に浅間連峰、西に北アルプス・御嶽山を一望し、南に八ヶ岳・富士山・中央アルプス・南アルプスを一望できる景観に富んでいるとともに、あの深田久弥にして「その



美ヶ原にある電波塔を望む

高さに、広さを加えるとまさに日本一かもしれない」と、いわしめた広大な溶岩台地が広がっています。

また、日本の中央に位置することから近年は無線の重要な中継地として、頂上付近の王ヶ頭・王ヶ鼻には放送各局の電波塔も設置されています。

もともと、美ヶ原高原は二七〇年前の元禄時代から農閑期の牛馬の休養場として利用されてきましたが、近年、ニホンジカの増殖により、牧場に牛ならぬシカが住み、また夏になると高原を覆い尽くしていた、ヤナギラン・クガイソウ・テガタチドリなどの高山植物も食害を受け、残るのはシカも食べないレンゲツツジの一群のみです。

稀少な高原の植物の回復を期して美ヶ原自然環境保護協議会で、ニホンジカ対策の電気柵の設置を行っています。



ニホンジカ対策の電気柵の設置



牧場内で群れるニホンジカ

中信署においても二十六年度からアツモリソウの保護を目的に電気柵の設置を行うこととしています。

また、高原の植物等保護の呼びかけを六月～一〇月までの期間、高山植物等保護対策協議会（高植協）とグリーン・サポート・スタッフ（GSS）と協力しながら行っています。これから、梅雨

の時期を迎え、急激な天候の変化や雷雨に注意して、安全対策を確実に、業務を遂行したいと考えています。



高山植物等の保護の呼びかけ（高植協とGSSの合同で）

行事・会議等の予定

◎長野林政協議会・林政連絡会議

7月8日 中部局

◎国有林観光施設協議会総会及び全国レクリエーション協会長野支部総会

7月10日 長野市

◎高山植物等保護対策協議会総会

7月16日 中部局

◎岐阜県・愛知県合同林政連絡会議

7月28日 岐阜市

◎夏休み子どもふれあいデー

7月31日 中部局



諏訪大社は、長野県中央の諏訪湖をはさんで南に上社（本宮・前宮）、北に下社（春宮・秋宮）に分かれ二社四宮が鎮座しています。

全国各地にある諏訪神社の総本社であり、日本最古の神社のひとつとされています。歴史は大変古く、「古事記」にその起源が、「日本書紀」には持統天皇が勅使を派遣した、と記されています。祀られている「お諏訪さま」「諏訪明神」は、古くは風の神、水の神、狩猟・農耕の神、武士の時代には軍神、現在では産業や交通安全、縁結びの神として信仰されています。

七年に一度、寅と申の年に行われる御柱祭で知られています。

◆上社（かみしゃ）  
本宮（ほんみや）（諏訪市）

片拝殿が幣拝殿の左右に並ぶ独特の「諏訪造り」で、建造物も四社中で最も多くを残しています。現在の建物は江戸時代に再建されたもので徳川家康の寄進による四脚門など、国の重要文化財に指



上社本宮

定されている貴重な建造物も多くあります。

◆前宮（まえみや）（茅野市）

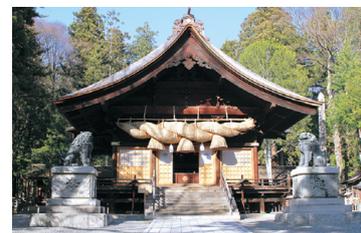
諏訪信仰発祥の地と伝えられており、その昔は諏訪大社の祭祀を司る大祝の居館をはじめ、多くの建物によって構成されていました。本殿を取り囲むように建つ四本の御柱がよく見えます。



上社前宮御柱

◆下社（しもしゃ）  
秋宮（あきみや）（下諏訪町）

樹齢八百年の杉の巨木や、御柱の年に新調される神楽殿の大注連縄などが荘厳な雰囲気醸し出しています。春宮と共



（上）下社秋宮神楽殿



（左）下社春宮幣拝殿

に国の重要文化財に指定される幣拝殿は二重楼門造りと呼ばれています。

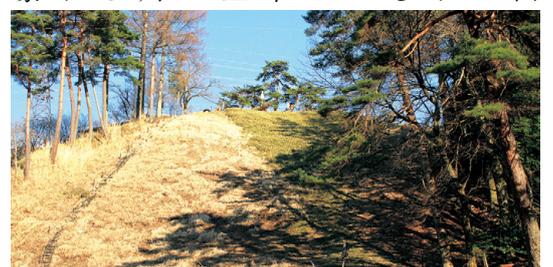
◆春宮（はるみや）（下諏訪町）

下馬橋と呼ばれる木造の太鼓橋を眺めながら直進すると、境内に辿り着きます。社殿の奥にそびえる杉の老木がご神木です。正面に神楽殿、その奥に幣拝殿と片拝殿、更に奥には宝殿があります。

◆御柱祭（おんぼしらさい）

「天下の大祭」として全国に知られている諏訪大社最大の神事です。正式名称は「式年造営御柱大祭」といい、宝殿を立て替え、また社殿の四隅に「御柱」と呼ばれるモミの巨木を曳建てる神事で七年に一度、寅と申の年に行われます。上社、下社それぞれに直径約一丈、長さ約一七丈、重さ一〇ト以上にもなる御柱を山から伐り出し、木遣りに合わせて人力のみで曳き、各お宮の四隅に建てます。

四月の「山出し」と五月の「里曳き」があり、山出しでは、巨木の御柱が次々と坂を下る「木落し」や、上社では冷たい水が流れる川を曳き渡る「川越し」があり、その豪



御柱が下る木落し坂

壮な情景は他に類を見ません。里曳きでは、曳行の合間に長持ち、騎馬行列など時代絵巻が繰り広げられます。

また、諏訪大社の御柱祭が終わると、諏訪地方の各地区にある小宮の御柱祭が行われ、御柱年の諏訪地方は一年を通じて御柱一色となります。

次回は平成二十八年（申年）

アクセス

上社本宮 JR中央本線 上諏訪駅下車 茅野駅下車

車 諏訪ICから約3km

上社前宮 JR中央本線 茅野駅下車

車 諏訪ICから約2km

下社春宮 JR中央本線 下諏訪駅下車

車 岡谷ICから約5km

下社秋宮 JR中央本線 下諏訪駅下車

車 岡谷ICから約6km